

# ATEM Newsletter

Apr. 2011 NO.21

発行日 :2011年11月25日  
 発行 :映画英語教育学会事務局  
 住所 :〒169-0075  
 東京都新宿区高田馬場  
 4-3-12アルク高田馬場4F  
 TEL :03-3365-0182  
 FAX :03-3360-6364  
 E-mail :office@atem.org  
 郵便振替 :00820-3-1477

**ATEM** 映画英語教育学会 / The Association for Teaching English Through Movies

## ATEM(映画英語教育学会)第4代新会長に角山照彦氏が選出!!



### ■ 新会長の挨拶

ATEM第4代会長  
 角山照彦 教授  
 (広島国際大学)

Teruhiko KADUYAMA

この度図らずも映画英語教育学会第4代会長を任されることとなりました。何分未熟な身ではありますが、何卒よろしくお願いいたします。

私が会長として目指すことは、本学会の学術団体としての地位をより強固なものにしてゆくと共に、産学協同を視野に入れた「開かれた学会」として学会の活性化を図ることです。

1995年の設立以来、本学会はこれまで映画を活用した英語教育の分野において先導的役割を果たしてまいりましたが、近年は会員数や大会参加者がかつて程の勢いを失うなど、やはり課題も抱えております。しかし、「映画」というエンターテインメントを冠した本学会の性格を考えますと、英語教育のみならず英米文学、英語学、コミュニケーション学、映画学等、幅広い分野の研究者にアピールできる可能性を秘めており、学会名称にある「映画」「英語」「教育」という3つのキーワードを創造的に組み合わせることで、まだまだ新たな可能性が生まれると確信しております。また、本学会の将来を考えると、専門的な学術研究のみを追求する「近寄りたくない」学会を目指すのではな

く、映画を活用した様々な英語学習を幅広い層の教育者や英語学習者に啓蒙できるような「開かれた学会」を目指すべきだと考えております。多くの研究者にとって、映画は単に研究対象であるだけでなく、自身の英語学習の道具であり、大きな動機づけでもあったはずで、その原点を忘れない学会でありたいと思います。さらに、広く産業界とも連携を模索し、産学協同を推進してゆくことも学会の将来に重要であると考えます。

そのための具体的な方策としては、学会の中核事業である研究紀要および全国大会の活性化を最優先課題として挙げます。まず紀要については、優秀論文賞の新設など、優れた論文の投稿に対する奨励策を講じることにより、より一層のレベルアップを図ります。次に全国大会については、支部間の連携や協力を強化すると共に、新しい企画を積極的に取り入れ、学会のメイン行事に相応しい規模・中身にしてゆくことを目指します。また、国際交流においては、韓国の姉妹学会STEMとの学術交流は引き続き継続してゆくと共に、新たな姉妹学会との提携も視野に入れ、会員の皆さんに幅広い学術交流の機会を提供したいと考えています。

最後になりますが、言うまでもなく学会は会員一人ひとりが主役です。是非日頃の授業実践や研究の成果を積極的に大会や紀要で発表してください。皆さんが会員であることに誇りを感じることができるよう学会を目指して、私は会長として全力を尽くしてゆく所存であります。



# 教育界と出版界、映画界とIT・メディア業界の融合した新しい学会の歩みを名古屋から!

## ATEM 第17回 全国大会の報告 映画英語教育学会

2011年8月28日(日)  
名古屋学院大学 名古屋キャンパス

### 名古屋大会の新記録が示した ATEMの将来への期待

平成23年8月28日、第17回全国大会が名古屋市内の名古屋学院大学(名古屋キャンパス)白鳥学舎にて開催されました。学会の全国大会が中部地方で開催されたのは第4回大会以来、13年ぶりとのこととなります。

大会のテーマは学会創設の初心を思い出し「映画英語教育」の基本と多角的用法の再考、最近の学習指導要領の改訂を意図して「映画英語教育を核にした小中高大の連携」とも副題されました。

大会冒頭に配置したのは「新学習指導要領にもとづく英語科教育法と映画の活用」と題した前会長磐崎弘貞先生(コーディネーター)兼パネリストのシンポジウム。大会の最後にお願いたしたのは「認知言語学からみたら映画英語教育の可能性」(京都大学



大会実行委員長  
鈴木雅夫  
(名古屋理事)  
(スクリーンプレイ)

大学院山梨正明教授の特別講演。詳しくはおのおのの報告欄をご覧ください。

今大会では、学会16年間の歴史に刻まれた歴代新記録があります。それは多種多様に応募され報告実施された21件のもの研究発表と当日速報された216名の大会参加者です。正式集計は近く事務局より発表されることとしていよう。

映画英語教育学会は語学系学会としてまだまだ歴史が浅く、規模も決して大きなものとはいえません。それでも本学会の2つの新記録が示したものは、本学会が21世紀、我が国の国際活動を支え、若き日本人青少年たちの国際共通言語獲得のために、期待されるべき、新しい教育と研究を目指す本学会の役割であること改めて思い起こしました。

### 特別講演

#### 「認知言語学からみたら映画英語教育の可能性」

山梨正明 教授  
(京都大学大学院)

2011年8月28日(日)に名古屋学院大学で行われたATEM第17回全国大会に、講師として山梨正明氏(京都大学大学院教授)をお迎えした特別講演会「認知言語学からみたら映画英語教育の可能性」が開催されました。学会員・非会員及び一般の聴衆を含めた約150名が参加しました。山梨先生は、主に認知言語学、記号論、語用論の観点から、言語と人間の知的メカニズムの解明に向けて精力的に研究を進められています。本講演では、現在、国際的に注目されている認知言語学の観点から、言語学の映画英語教育への適用の可能性についてお話ししていただきました。その内容は以下の通りです。

認知言語学のパラダイムでは、言語能力は、人間の進化における単なる知性の産物ではなく、生物一般の感覚・運動的な身体的経験に根ざす認知能力(特に、認知能力の中核を成す)を不可欠の前提としています。創造的イメージ能力が、言語能力の根源的な基盤として日常言語の発現を支えていると考えます。つまり、認知言語学のアプローチでは、言語能力はこれらの

今回の大会では200名を超える参加者を迎え、平行4会場で五つの研究発表が準備されました。総会場での特別研究発表1件を加えて合計21件の発表が行われました。今大会は各会場で平均40名以上の参加者があり、活発な大会となりました。



### 特別企画「シンポジウム」

コーディネーター

発表者

磐崎弘貞 秋山敏晴/石川慎一郎/磐崎弘貞

### 「新学習指導要領にもとづく英語科教育法と映画の活用」

2008~2009年に改訂された小中高校の学習指導要領を背景に、映画教材を持つポテンシャルを探るのか本シンポジウムの狙いであり、以下の3つの発表を行った。

発表1

秋山敏晴 (北海道工業大学)  
「小学校英語活動における映画の利用について」



小学校英語活動において、映画は「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する」有効な教材である。なぜなら、映画は、(1)オーセンティブで良質な英語を提供でき、(2)内容を推奨する力を一層伸ばし、(3)文化を具体的に提示できるからである。そこで、児童にふさわしく、字幕なしで会話に集中できる場面と時間設定を考慮した上で、そうした映画教材の活用例を提示し、児童が映画で英語に親しみ、英語を使うことに自信を深めることを示唆した。

発表2

石川慎一郎 (神戸大学)  
「コーパス・映画・語彙・小中高の英語教育への示唆」

新指導要領は、「詰め込みかゆとりか」という従来の二項対立を超えて、新たに「生きている」という方向性を打ち出している。そこで、英語教育、とくに語彙指導の枠組みにおいて「生きる力」を再定義すると、英語圏の文化を背景として語彙の機能



このように講演会の前半では認知言語学のパラダイムと基本について、また後半は、認知言語学や語用論的観点からの映画英語教育への適用可能性についてお話ししていただき、これからの映画英語教育研究にも関連のある深い示唆を与えていただきました。

文責: 宝貴員(岐阜聖徳学園短期大学)

発表3

磐崎弘貞 (筑波大学)  
「大学英語教育でvideo actingと中高校への示唆」

コミュニケーション活動を実施する上で重要な点は、場面での適切さである。誰か誰にどう、という状況で話し書いているのかといった点は、語彙・文法構造・音調など、多くの言語要素に関連している。こうした点を統合的に学ぶ手法として、大学でvideo actingの実践を紹介した。発表では、TVホームコメディFamily Tiesの一部を題材に、誰と誰がどういう場面でいった点を、templateと呼ぶ学習シートで確認・練習した上で、グループ活動としてそのシーンをそのまま再現し録音した手法を紹介した。こうした実践によりコミュニケーションスキルを向上させながら、積極的な学習態度を育成することができ





## 事務局から ATEM会員管理システムについて

すでにご連絡をしております通り、本学会では7月に「ATEM会員管理システム」を新たに導入し会員の皆様の個人情報を一元管理することといたしました。

今後本システムによる情報提供・会員サービスを拡充していきたいと思っておりますので、下記URLにて皆様の情報が最新のものかご確認ください。

会員IDおよびパスワードは7月に郵送にてご連絡をしておりますが、ご不明な方は本部事務局 (office@atem.org) までメールにてお問い合わせください。

会員の皆さまの個人情報は学会が「個人情報保護法」に基づいて責任を持って管理致しております。また、学会活動以外に使用されることはありません。

### 『個人のページ』の情報確認・修正のお願い

<https://www.atem.org/member/>

ATEM会員管理システムには、会員皆さま方の情報を確認・修正して頂ける『個人のページ』を作成しております。『個人のページ』の情報確認・修正をお願い致します。

問い合わせ先：映画英語教育学会(A T E M)本部事務局  
T E L : (03) 3365-0182 E-mail: office@atem.org

### ATEM事務局から 2011年度会費納入のお願い

**2011年度会費(2011年4月1日～2012年3月31日) 5,000円**

- 2011年分の会費の入がまだお済みでない場合は、下記の郵便口座まで納入願います(5,000円)。会費の納入が遅れますと学会活動に支障をきたしますのでご協力ください。また、**2年以上滞納されますと会員資格を失います**。ご注意ください。
- 会費納入状況についてご不明な方は、同封の「ATEM会員管理システム」導入に従って、ログインを行い、ご自身の納入状況をご確認ください。



#### 個人の会費納入状況

過去3年分の納入状況が表示されています。

※必ず会費の納入状況をご確認ください。  
※納入後一か月以上経過しても表示が変わらない場合は何かの手違いの可能性があります。ご面倒でも本部事務局までお知らせください。

『映画英語教育学会事務局』口座番号 **00820-3-1477**

\* 郵便局備え付けの青色振替用紙をご利用ください。\* 必ず、通信欄に「〇〇年度年会費」と明記ください。

※ATEMでは会費納入は本部事務局への振込みが原則です。支部および個人会員が預かる事はありません。会員登録や学会からの配布物・情報サービスは会費納入を確認の上、本部事務局で手続きを行いますのでご注意ください。